

## 研究の概要

### 1, 研究主題

研究主題 自分の考えをもち、自ら表現できる児童の育成

副主題 考える楽しさを味わわせ、表現する力を育てる算数の指導

### 2, 主題、副主題設定の理由

23、24年度と、国語科を通して「自分の考えをもち、自ら表現できる児童の育成」をテーマに研究に取り組んできた。その結果、国語科において、身近な例や自分の経験に置き換えて考えを表現したり、文型や話型に当てはめながら、自分の立場をはっきりさせて考えを述べたりする児童が増えた。

しかし課題として、児童のアンケート結果から、話すことが苦手と感じる学年が増えたことや、他教科や生活全般の児童の実態から、依然として自分の考えをもち、自ら表現できる力が十分育っているとは言えないことが挙げられた。

このことから、国語科だけでなく他教科でも自分の考えをもち、自ら表現する活動を意図的・効果的に行っていくことが必要であると考えた。特に算数科では、計算はできるが考え方を聞かれると答えられない、文章を読んでその解き方を考えようとしなない、思考力が弱いなどの実態がある。さらに、基礎・基本に力を入れ、学力を伸ばし、定着を目指したいという教師の願いもある。

以上の理由から、昨年度の研究では、算数科を通して「自分の考えをもち、自ら表現する児童の育成」を目指し、23、24年度と同様の研究主題を設定した。また、自分の考えをもち、自ら表現できるようになるためには、考える楽しさを味わい、考えたことを書いたり話したりして、表現したいと思わせることが必要であると考え、副主題を「考える楽しさを味わわせ、表現する力を育てる算数の指導」とし、研究を進めてきた。

#### ○25年度の成果

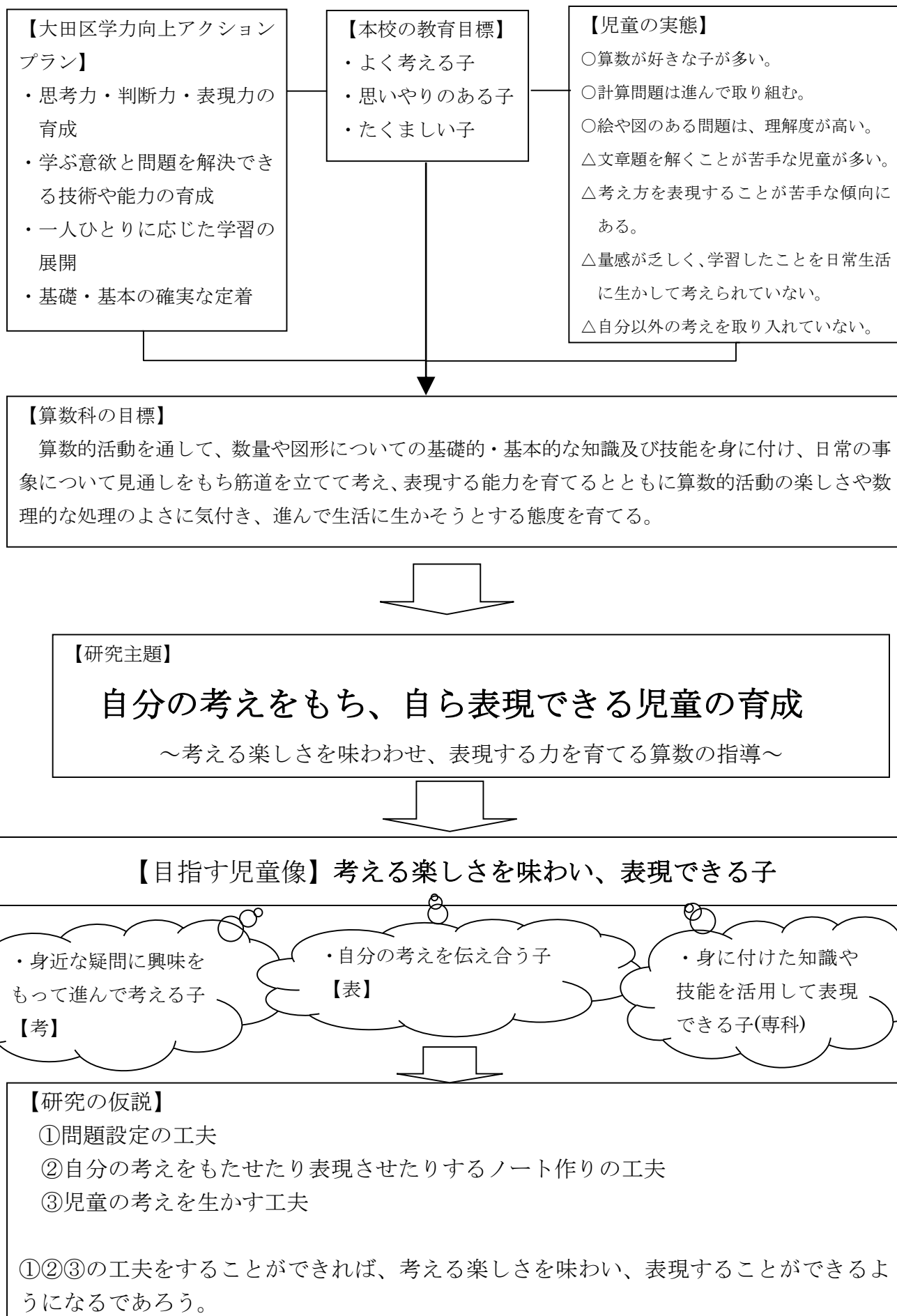
- ・具体物の提示や身近なものを題材に取り上げた問題など、問題提示の仕方を工夫したことで、問題に対する興味、関心が高まった。
- ・問題設定を工夫し、考える時間を確保したことで、図や式、言葉などで自分の考えをノートに表せる児童が増えた。
- ・日常的にペア学習やグループ活動を取り入れることにより、考えを伝えることができた。
- ・自分の考えを友達と交流することにより、自分の考えに自信をもったり、考え直したり、友達の考えを取り入れたりし、学習の広がりがあった。

#### ●25年度の課題

- ・「なぜ」「どうして」と本来の算数的楽しさを感じられる問題設定の工夫
- ・比較したり、検討したりし、個々のいろいろな考えを練り上げ、考えを深める指導法の工夫
- ・思考、表現する時間や場面の明確化
- ・年間指導計画の見直し
- ・学校全体で統一した指導方法の工夫(ノート作りや学習の流れなど)
- ・相手を意識した説明の仕方の工夫

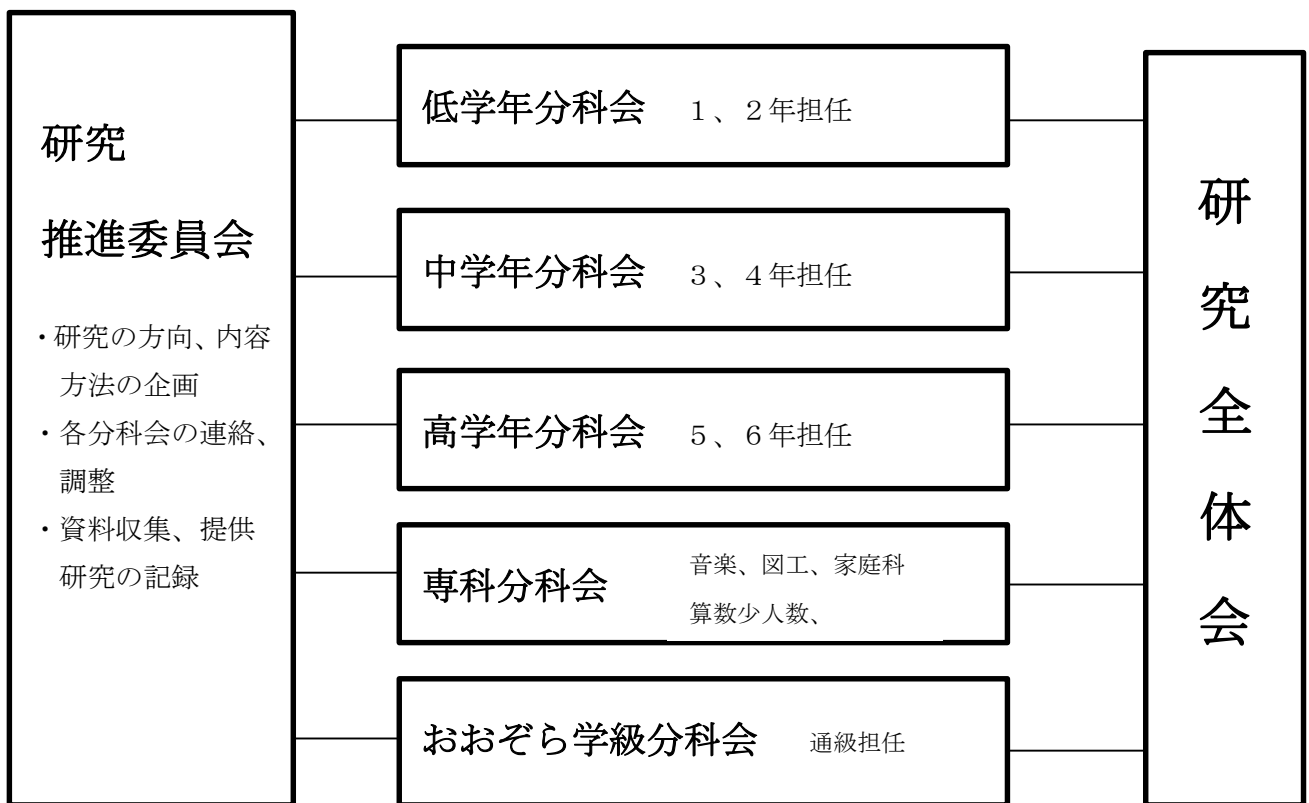
今年度の研究では、昨年度の成果と課題を踏まえ、課題の解決に重点を置いて取り組むことで、児童の思考力・表現力を育てていきたいと考える。特に、考えることを楽しませる問題設定の工夫、考えを深める指導法の工夫、更に学校全体で統一したノート作りや学習の流れを研究し、授業改善に努めたい。

### 3, 研究の構想



- ・各学年、専科、おおぞらで研究授業に取り組む。
- ・各分科会で研究主題に沿って学習指導案を作成後、必要がある場合には研究推進委員会で検討する。研究全体会で研究授業を行い、協議会を開く。
- ・協議会には講師を招き、指導講評を受ける。
- ・担当分科会が協議内容を記録し、成果と課題を整理し、次の研究授業までに協議会記録として文書で報告する。
- ・研究授業は、3クラス5展開のうち、習熟度3コースのうち1コースを対象とし、他の2コースについても指導案を作成し提案する。
- ・研究授業が終わるごとに、研究の視点に沿った指導の手だてをまとめ、整理していく。

5, 研究組織 低、中、高、専科、通級の5分科会で組織する。



6, 研究経過

月 日	内容
4月 9日 (水)	全体会 研究主題、組織、研究方法、についての確認 前年度の課題、年間計画 など
4月 23日 (水)	全体会 年間計画、全体構想図、検証の方法、視点に対する手立てのワークシートについて など
5月 27日 (火)	研究授業① 高学年分科会 6年授業 深井 彩子 教諭 「分数のわり算を考えよう」 講師 國學院大学教授 滝井 章 先生
6月 23日 (月)	研究授業② 専科分科会 3年授業

	佐々木 佳子 教諭 「ペッタンハウス物語」 講師 大田区立高畑小学校校長 横山 圭介 先生
7月 7日 (月)	研究授業③ 中学年分科会 4年授業 藤井 康友 教諭 「四角形をつくろう」 講師 大田区教育委員会統括指導主事 岩崎 政弘 先生
9月 12日 (金)	研究授業④ 高学年分科会授業 5年授業 川崎 修央 教諭 「単位量あたりの大きさ」 講師 國學院大学教授 滝井 章 先生
10月 9日 (木)	研究授業⑤ 中学年分科会 3年授業 岩本 瞬 教諭 「かけ算のしかたを考えよう」 講師 國學院大学教授 滝井 章 先生
11月 4日 (火)	研究授業⑥ 低学年分科会授業 1年授業 杉江 美香 教諭 「20よりおおきいかず」 講師 國學院大学教授 滝井 章 先生
12月 9日 (火)	研究授業⑦ 低学年分科会授業 2年授業 撰 さつき 教諭 「九九をつくろう」(かけ算2) 講師 國學院大学教授 滝井 章 先生
2月 25日 (水)	全体会 今年度の研究の成果と課題の確認 次年度の研究の方向性や教科について など

### 今年度の研究の成果と課題

#### ○成果

##### 〈問題設定の工夫〉

- ・身近なものや児童の関心があるものを問題に取り上げることで、課題に対して意欲的に取り組む児童が増えた。
- ・ねらいや児童の実態に合わせた問題設定や見通しをもたせる工夫により、式の意味や問題の解き方を考える子が増えた。
- ・ねらいや児童の実態に合わせた問題設定や見通しをもたせる工夫により、自分の考えを書ける児童が増えた。

##### 〈ノート作りの工夫〉

- ・学習の流れを理解し、自分の考えを言葉、式、図などを用いて表現し、自分でノート作りができる児童が増えた。

##### 〈児童の考えを生かす工夫〉

- ・児童の考えを生かす交流の工夫により、友達の考えに興味をもって聞いたり、多様な考えを理解したりする児童が増えた。
- ・児童の考えを生かす交流の工夫により、児童間で考えを深めるようになった。更に、友達の考えを検討しようとする姿が、他教科でも見られるようになった。
- ・チームティーチングによって、個に応じた指導を充実し、児童の考えを把握することにつながった。

- ・教師は、問題解決学習の流れやポイントを理解し、授業改善につながった。

#### ●課題

- ・ワークテスト「数学的思考方」の平均点を昨年度と比較し検証すると、ほとんど数値的な変動は見られなかった。数値による評価方法に、数学的思考方の伸びが反映されるのか、数学的思考方の伸びをどうすれば検証できるのかという疑問があり、検証方法に課題が残る。
- ・既習事項の定着具合や児童の実態により、見通しのもたせ方を工夫する。
- ・ペアやグループ学習は、ねらいによって、タイミングや形態を工夫する。
- ・適用問題の内容や量、取り組む時間を吟味し、学習の定着を図る。
- ・少人数指導における適切な評価方法や、児童による振り返りのポイントを検討する。
- ・教師は、机間指導をしながら、児童一人一人の考えを把握するとともに、集団検討をコーディネートする力を高める。